

中外製薬のご紹介

中外製薬株式会社

上席執行役員 CFO

板垣 利明

2021年12月14日



本プレゼンテーションについて

本プレゼンテーションには、中外製薬の事業及び将来に関する見通しが含まれていますが、いずれも、既存の情報や様々な動向についての中外製薬による現時点での分析を反映しています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により現在の見通しと異なることもあります。

医薬品（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、それらは宣伝・広告や医学的なアドバイスを目的とするものではありません。

本日の内容

01

会社概要

02

ロシュとの戦略的アライアンス

03

中外独自の革新的な創薬力

04

新成長戦略

05

業績と株式関連情報

会社概要

がん・バイオに強みを持つ、研究開発型製薬企業

医療用医薬品メーカーとして日本トップクラス

売上収益 7,869億円 営業利益 3,079億円 営業利益率 39.1% (2020年度決算Coreベース)

国内がん領域で売上シェア 第1位* (2020年度決算ベース)

国内抗体医薬品市場で売上シェア第1位* (2020年度決算ベース)

独自の創薬技術力

国産初の抗体医薬を創製。抗体・中分子等で世界最先端の技術力

ユニークなビジネスモデル

戦略パートナーであるロシュ社が株式59.89%を保有

独立した上場企業として自主的経営を実行



ビジネスモデルを変革

1925



医薬品の輸入商社
として創業

1960s



医療用医薬品への
シフト

1980s



バイオ医薬品への
注力

2002



ロシュとの
戦略的アライアンス

ミッションステートメント



存在意義
Mission

革新的な医薬品とサービスの提供を
通じて新しい価値を創造し、
世界の医療と人々の健康に貢献します



価値観
Core Values

▶ 患者中心

患者さん一人ひとりの健康と幸せを
最優先に考えます

▶ フロンティア精神

自らを磨き、新たな発想で、
イノベーションを追求します

▶ 誠実

常に誠実な行動で、社会の期待に
応えます



目指す姿
Envisioned Future

ロシュとの協働のもと、
独自のサイエンス力と技術力を核として、
患者中心の高度で
持続可能な医療を実現する、
ヘルスケア産業の
トップイノベーターとなります

売上収益の構成

青字：抗体医薬品



その他領域
ヘムライブラ エンスプリング
セルセプト タミフル
Foundation Medicine



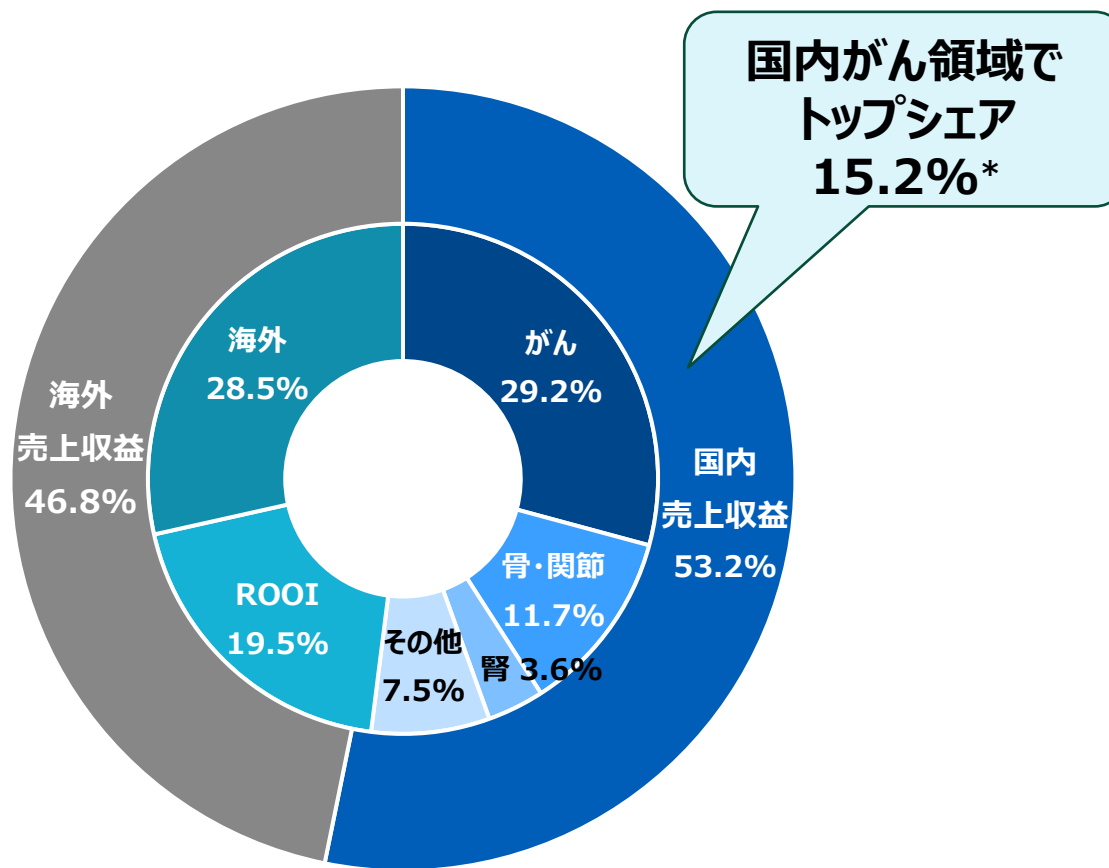
腎領域
ミルセラ オキサロール

ROOI: ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入

*Copyright © 2021 IQVIA.

出典：IQVIA 医薬品市場統計2020年暦月（1月－12月）をもとに作成 無断転載禁止 市場の定義は中外製薬による

2020年度
売上収益 7,869億円



がん領域

<u>アバスチン</u>	<u>テセントリク</u>
<u>パージェタ</u>	アレセンサ
<u>ハーセプチン</u>	<u>カドサイラ</u>
<u>リツキシマン</u>	<u>ガザイバ</u>
ゼローダ	ロズリートレク



骨・関節領域

<u>アクテムラ</u>	エディロール
ボンビバ	スベニール

本日の内容

01

会社概要

02

ロシュとの戦略的アライアンス

03

中外独自の革新的な創薬力

04

新成長戦略

05

業績と株式関連情報

ロシュとは



Roche ロシュグループ

ロシュグループについて



設立	1896年10月
売上高	7兆660億円*
営業利益	2兆5,200億円*
従業員数	101,465人
本社	スイス、バーゼル
拠点の数	約150カ国



ビジネスモデル



Roche ロシュ グループ

- 中外製品をグローバル市場で最大化
- 豊富なロシュ製品を日本で展開

自社創製品

革新的・挑戦的な創薬に特化

ロシュへの導出により
グローバル開発・販売を加速



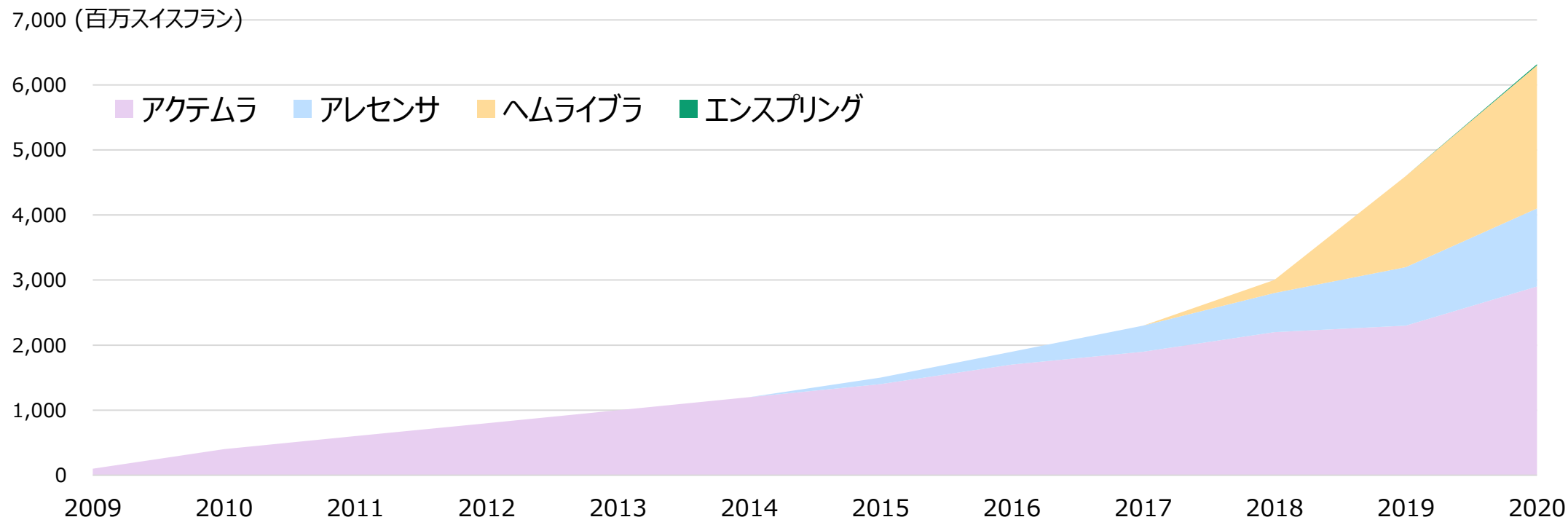
- ロシュ製品を日本市場で最大化
- 革新的な中外創製品をグローバルで展開

ロシュ導入品

有力新薬候補を
日本市場で独占的に開発・販売

国内事業で安定的な
収益を確保

自社創製品の世界売上高



アクテムラ®



- 日本初の抗体医薬品
- 適応症：関節リウマチなど
- 全世界で売上3,000億円以上

アレセンサ®



- 当社が推進する個別化医療の代表例
- 適応症：ALK陽性 肺がん
- 1次治療の承認取得（日/米/欧）
- 全世界で売上1,000億円以上

ヘムライブラ®



- 独自の抗体技術を活用
- 適応症：血友病A
- 全世界で売上2,000億円以上

エンスプリング®

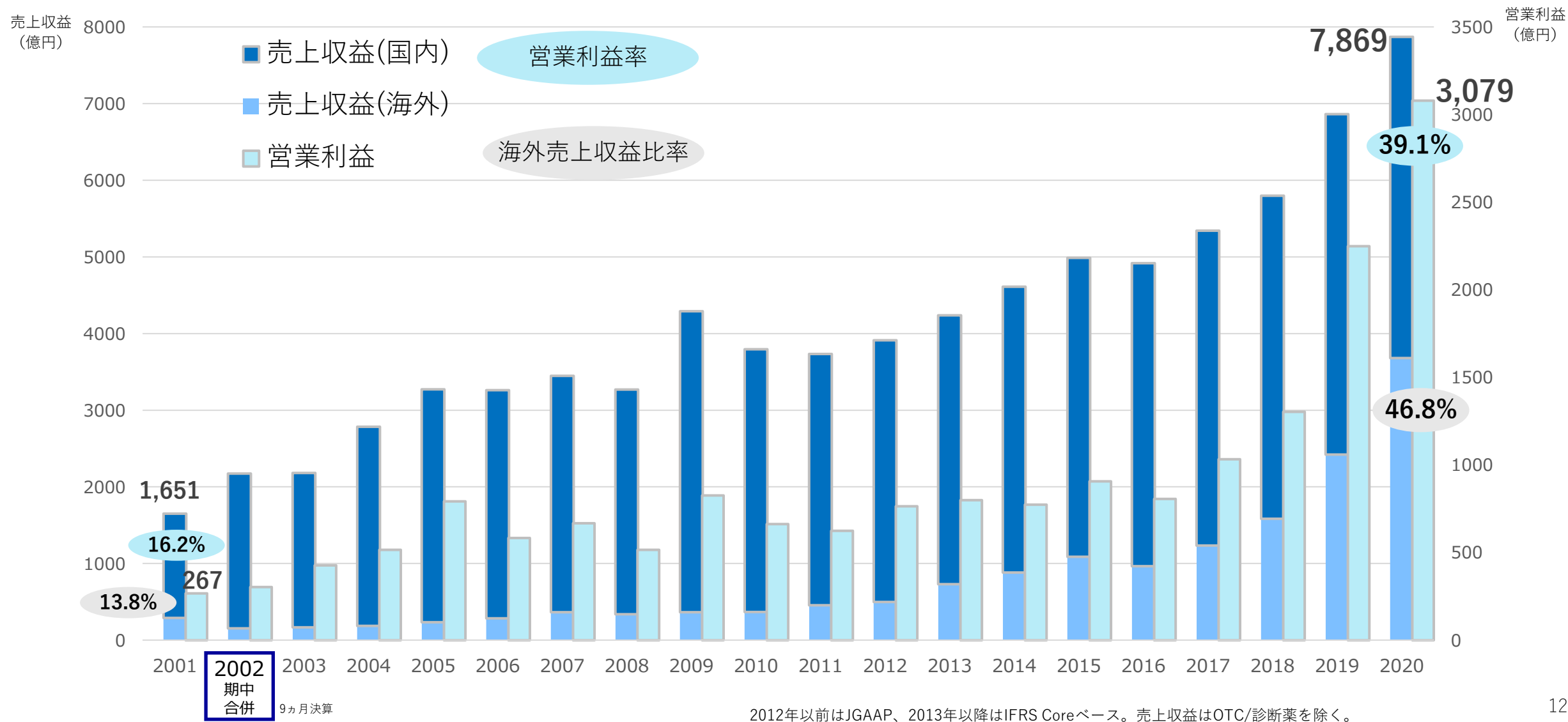


- 独自の抗体技術を活用
- 適応症：視神経脊髄炎
スペクトラム障害

20年間の軌跡



Roche ロシュ グループ



本日の内容

01

会社概要

02

ロシュとの戦略的アライアンス

03

中外独自の革新的な創薬力

04

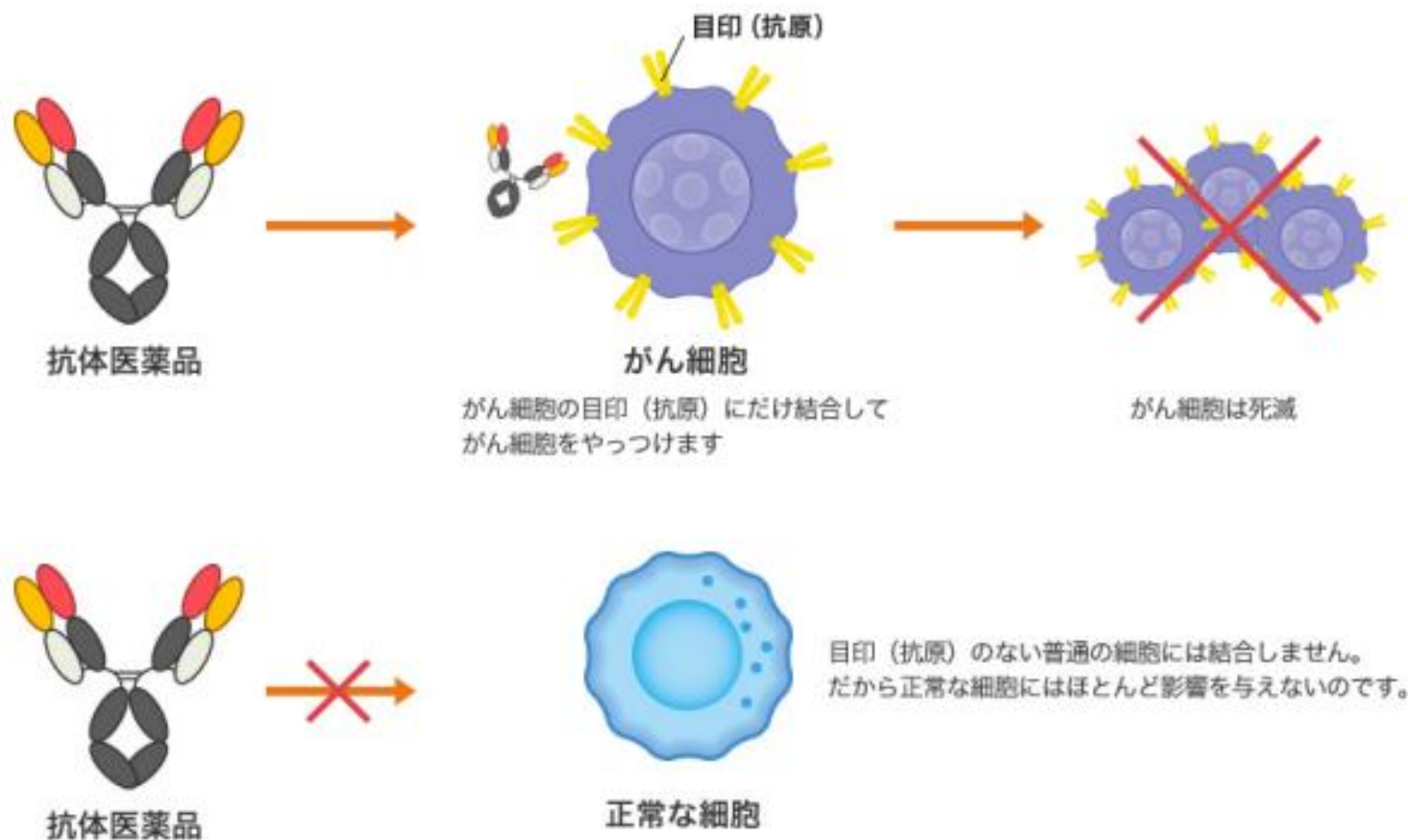
新成長戦略

05

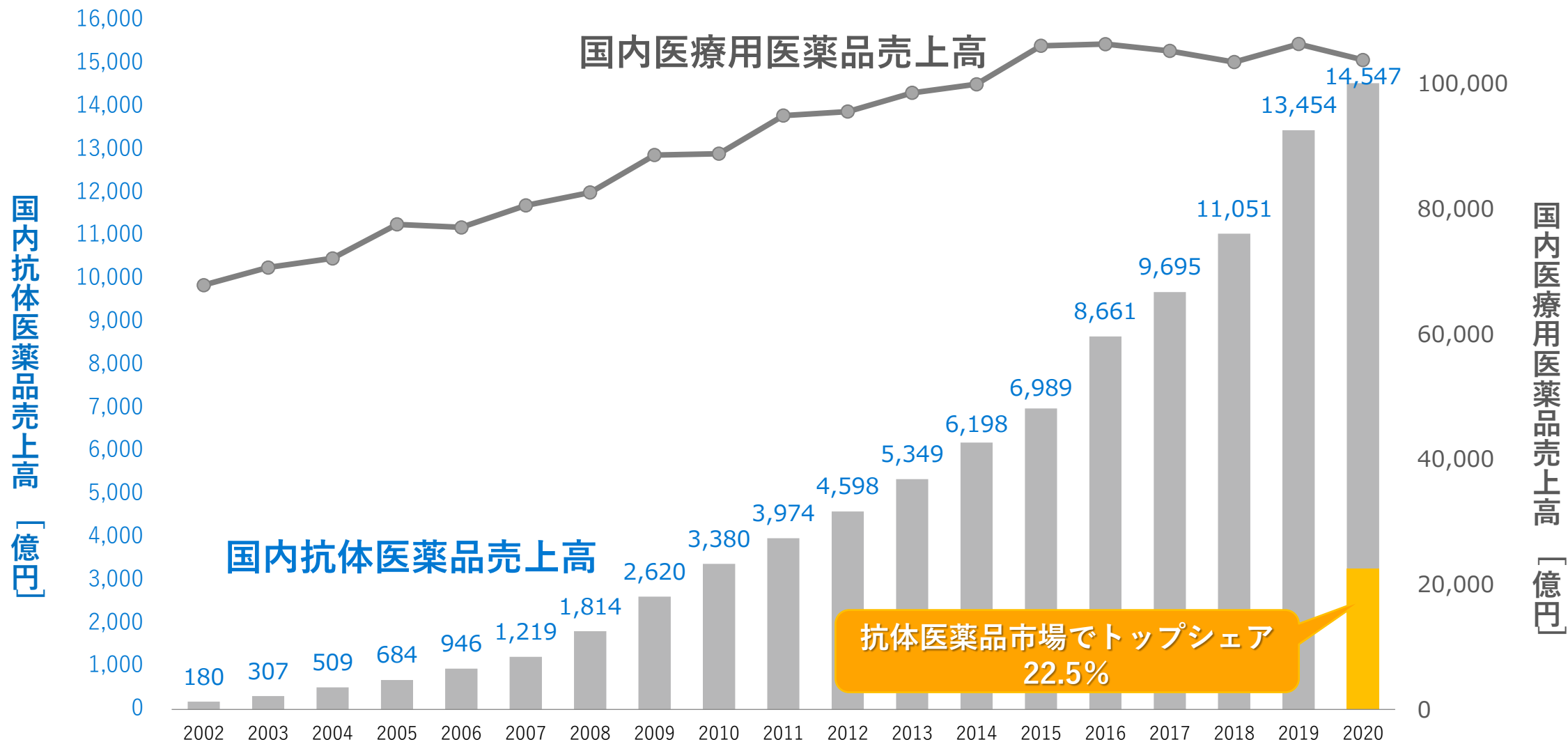
業績と株式関連情報

抗体医薬品とは

病原菌などの異物（抗原）が体内に入ってきたときに、その異物と結合して無毒化させようとする物質を抗体といいます。
この作用は「抗原抗体反応」と呼ばれ、人間が持っている免疫機能と言われるものです。
抗体医薬品は、この抗原抗体反応を人工的に利用したくすりです。



抗体医薬品の国内売上高推移



独自の創薬技術

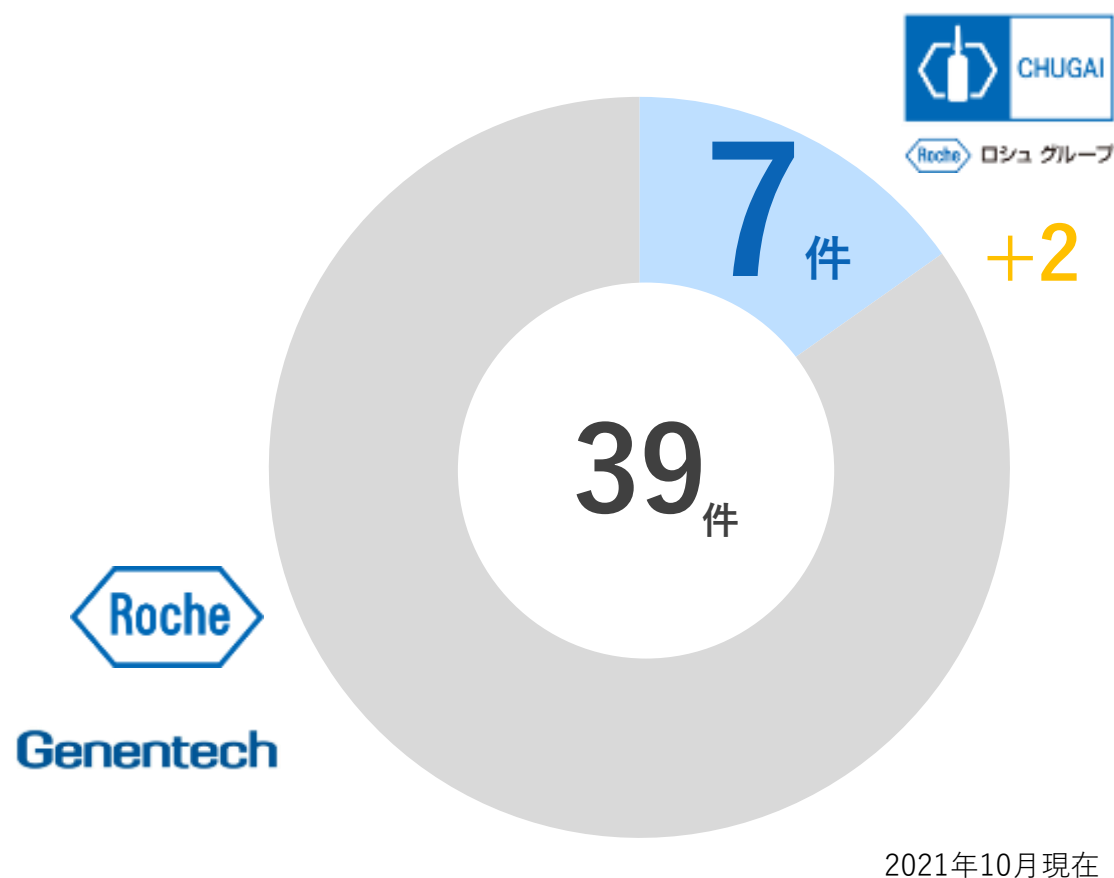
- 抗体エンジニアリング技術や低分子創薬技術に加えて中分子創薬技術も開発し、疾患ターゲットへの最適なアプローチを可能に
- がん・免疫領域の研究基盤強化による革新的なシーズ獲得



革新的医薬品の創製

当社創製した6品目/9プロジェクトが、ブレイクスルーセラピーに指定

ブレイクスルーセラピー指定制度：革新的な治療薬の開発・審査の促進を目的にした米国食品医薬品局（FDA）の制度



年度	品目	適応症
2021	VS-6766 (CKI27)	漿液性卵巣がん2次治療 (Verastem社にて開発中)
2019	ネモリズマブ	結節性痒疹 (ガルデルマ社にて開発中)
2018	エンスプリング	視神経脊髄炎スペクトラム
	ヘムライブラ	血友病A（非インヒビター）
2016	アクテムラ	巨細胞性動脈炎
	アレセンサ	ALK陽性非小細胞肺癌1次治療
2015	アクテムラ	全身性強皮症
	ヘムライブラ	血友病A（インヒビター）
2013	アレセンサ	ALK陽性非小細胞肺癌 2次治療

豊富な開発パイプライン

がん

 **AF802 (RG7853)**
非小細胞肺癌 (アジュバント)

 **GC33**
肝細胞がん

 **ERY974**
固形がん

 **AMY109**
固形がん

 **STA551**
固形がん

 **SPYK04**
固形がん

 **SOF10 (RG6440)**
固形がん

 **LUNA18**
固形がん

41

プロジェクト

自社品：8プロジェクト

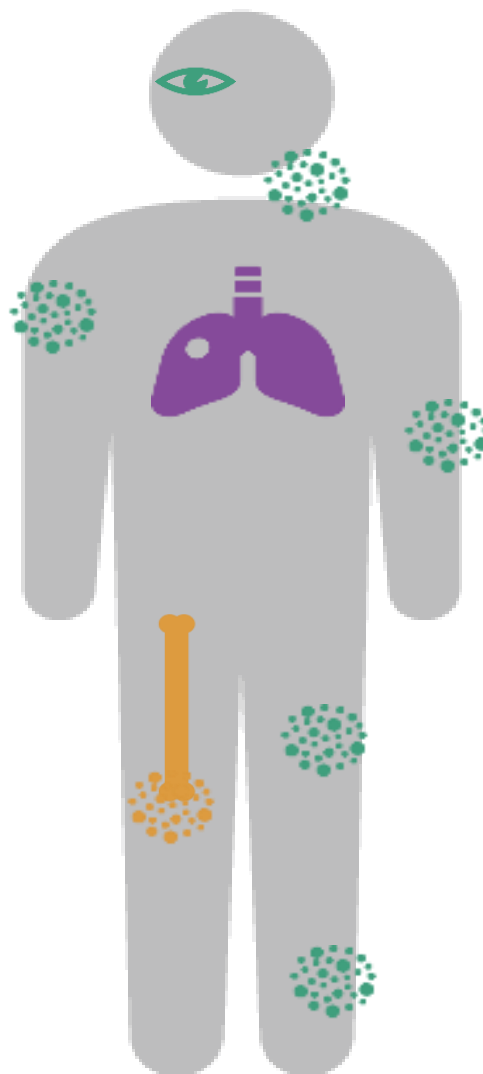
骨・関節

 **NRD101**
変形性膝関節症/
肩関節周囲炎 [中国]

1

プロジェクト

自社品：1プロジェクト



神経疾患、その他

 **SA237 (RG6168)**
全身型重症筋無力症

 **MRA (RG1569)**
新型コロナウイルス肺炎

 **ACE910 (RG6013)**
後天性血友病A

 **SKY59 (RG6107)**
発作性夜間ヘモグロビン尿症

 **GYM329 (RG6237)**
神経筋疾患

 **PCO371**
副甲状腺機能低下症

 **AMY109**
子宮内膜症

 **NXT007**
血友病A

17

プロジェクト

自社品：8プロジェクト

本日の内容

01

会社概要

02

ロシュとの戦略的アライアンス

03

中外独自の革新的な創薬力

04

新成長戦略

05

業績と株式関連情報

TOP INNOVATOR TOP i 2030

2030年にヘルスケア産業のトップイノベーターになる！

“TOP”には、「日本ではなく世界のトップイノベーター」を目指す想いが込められ、
“I”には、「イノベーター」に加えて「私=I」という2つの意味が重ねられている。

イノベーターの “I”

多様なプレーヤーがイノベーションに挑戦する
世界のヘルスケア領域において
トップクラスの「イノベーター」になります。

私の “I”

価値創造の原動力は、「人」であり、
私たち一人ひとりが「TOP I 2030」の
実現を目指す中外の主役です。

『R&Dアウトプット 倍増』 ・ 『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

Key Drivers ▶ DX ▶ RED SHIFT ▶ Open Innovation

5つの改革

①創薬

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

②開発

- ▶ ヒト予測の高度化や複数疾患同時開発等による製品価値早期最大化
- ▶ デジタルを活用した先進的且つ効率的な臨床開発オペレーションの実現

③製薬

- ▶ 競争優位な中分子生産技術の確立
- ▶ 世界最高水準の抗体製薬技術の確立と開発スピードの実現
- ▶ デジタル・外部を活用した効率的な生産体制の構築

④Value Delivery

- ▶ デジタルを活用した革新的な顧客エンゲージメントモデル構築による顧客価値最大化
- ▶ 独自のエビデンス創出による更なる個別化医療の実現

⑤成長基盤

- ▶ イノベーション創出を支える人財獲得、人事制度・最適組織体制の構築と運用
- ▶ CHUGAI DIGITAL VISION 2030実現
- ▶ 地球環境対策の実行
- ▶ 質と効率を両立するクオリティマネジメント
- ▶ インサイトビジネスの事業化模索

中外デジタル ビジョンムービー



Roche ロシュ グループ



中外DXについての外部評価



DX銘柄2021
Digital Transformation

- 日本企業のDXを加速していくことを目的に、経済産業省と東京証券取引所が共同で選定
- 国内上場会社約3,800社から**28社が選定**
- **医薬品業界**におけるDX銘柄2021選定は、**中外製薬のみ**
- DX銘柄2020に続き、**2年連続の選定**

CHUGAI DIGITAL ウェブサイト

<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/index.html>

CHUGAI DIGITAL コンセプトムービー

<https://youtu.be/SWOYtFX5-1U>

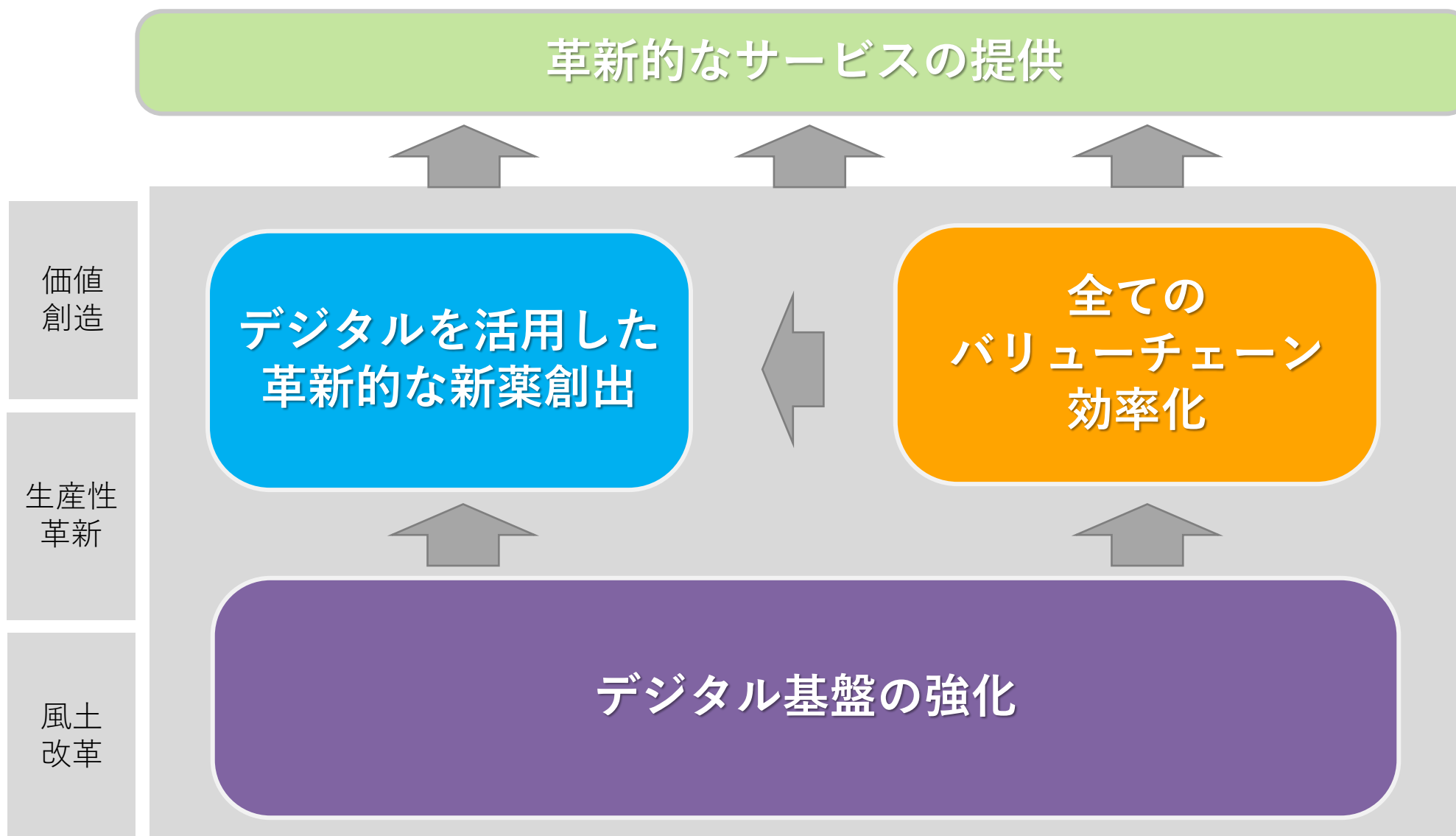


CHUGAI DIGITAL VISION 2030

デジタル技術によって中外製薬のビジネスを革新し、
社会を変えるヘルスケアソリューションを提供する
トッパイノベーターになる



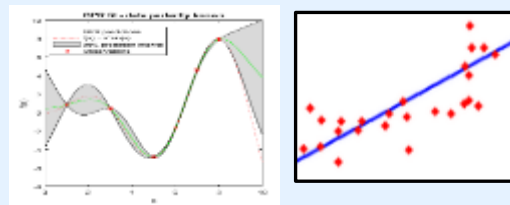
デジタル基本戦略



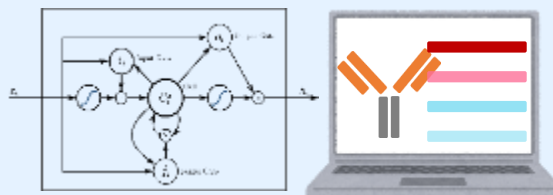
多様な抗体の
特性Data



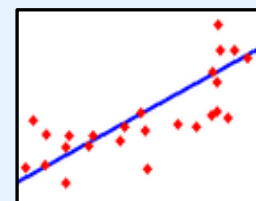
特性予測モデル



新規抗体配列生成



AIによる 開発候補提案



研究者による
評価・判断



実験

AI

実験

- ✓ 新規配列の予測結果を実験に提案。
- ✓ 試行錯誤のスピードアップとイノベーションの確率上昇が期待。

デジタルバイオマーカー

子宮内膜症での活用事例

- ウェアラブルデバイスとAIプラットフォーム技術により、客観的かつ持続的に痛みを評価する可能性を検証
- OPINE試験: 観察研究 (NCT04318275)
- デバイス: E4®
- Pain Index (患者由来バイタルサインをアルゴリズムで解析) と痛みの数値評価スケール (NRS) を取得
- Biofourmis と共同研究



<https://www.empatica.com/research/e4/>
(Access: 15:05 JST, 14 Sep. 2020)

血友病での活用事例

- 患者報告に基づく運動の実施状況と出血の関連性、およびウェアラブル活動量計による運動時の身体活動データの評価
- TSUBASA試験: 前向き客観研究 (UMIN000037448)
- デバイス: Actigraph社 Insightwatch
- ePRO: Welby社TSUBASA試験専用アプリ

ウェアラブルデバイス



ePRO



スマートプラント



リアルタイムに自身の作業と
前後工程の状況を共有し
非稼働時間を最小化



XRやビジュアルSOPを活用した
自主学習システムで**教育効率化**
と**育成期間の短縮**

リアルタイム
アサイン

リモート支援



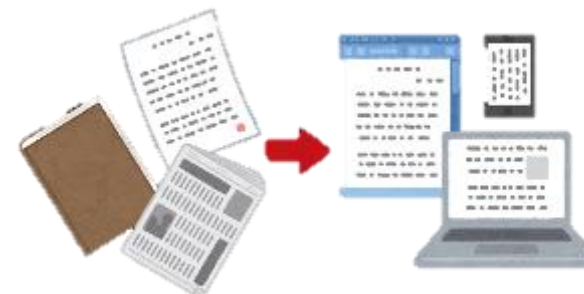
現場作業員

バーチャル
教育

ペーパーレス



スマートグラスを通したコミュ
ニケーション、ビジュアルSOP
による**操作ミス・逸脱の抑制**



フルデジタルレコード化で紙管理の
廃止。トレーサビリティを確保し、
効率化と同時に**コンプライアンス強化**

リアルとデジタルが融合したマーケティング



OC（ゼロ・シー、Organic Communication）
有機的なコミュニケーション実現に向けた部門横断タスク

OC1
データの
見える化

OC2
営業
データの
質の向上

OC3
新たな
顧客への
アプローチ

デジタル
戦略推進

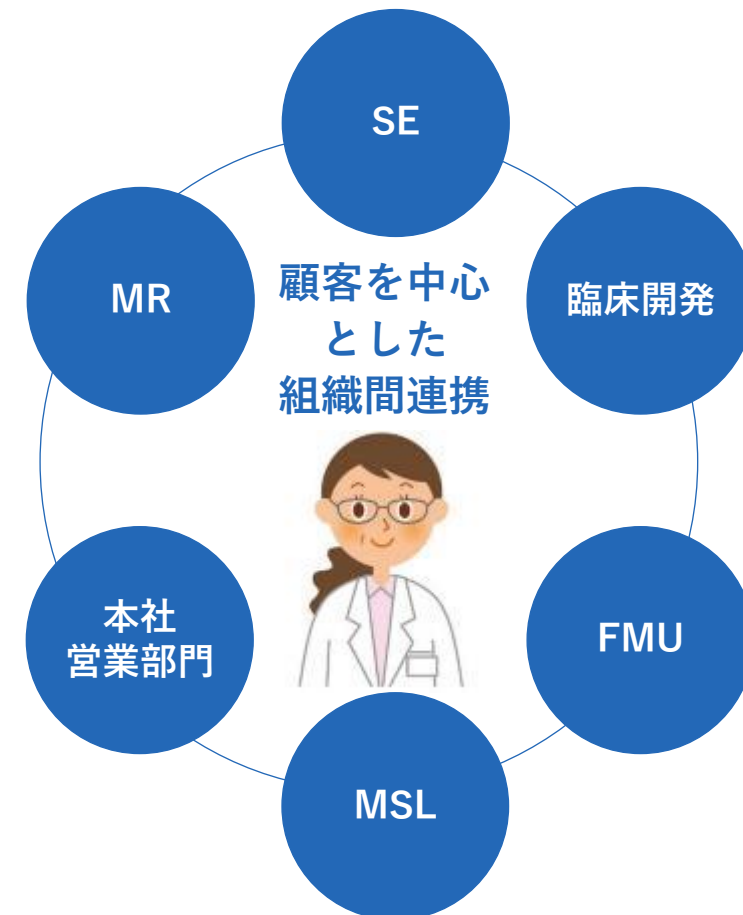
医薬安全性

MA

営業

臨床開発

FMU



MSL: Medical Science Liaison
MA: Medical Affairs
SE: Safety Expert
FMU: Foundation Medicine Unit

中外ESGについての外部評価

GPIFが採用している**全てのESGインデックス**に組み入れられています。

2021 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2021 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



FTSE Blossom
Japan



世界的な**ESG投資指数**に
継続的に選定されています。

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA

全世界の医薬品企業の上位8社で構成される「DJSI World」に2020年より継続して選定（当社は世界2位）



FTSE4Good

中期環境目標2030

3つの重点テーマ	10項目	KPI（基準年2019年）		
気候変動対策 (地球温暖化防止)	Scope 1+2 ^{*1} CO ₂ 排出量	2025年：40%削減	2030年：60-75%削減	2050年：排出ゼロ
	Scope 1+2 ^{*1} エネルギー消費量	2025年：5 %削減 ^{*2}	2030年：15%削減 ^{*2}	
	サステナブル電力比率	2025年：100%		
	営業車両総燃料使用量	2025年：35%削減	2030年：75%削減	
	フロン類使用量（基準年2020年）	2025年：25%削減	2030年：100%削減	
循環型資源利用 (省資源・廃棄物対策)	廃棄物排出量	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	
	プラスチック廃棄物	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	
	水消費量（取水量）		2030年：15%削減 ^{*2}	
生物多様性保全 (環境負荷低減)	有害化学物質使用量（SVHC ^{*3} ）	2021年以降、開発候補となるすべての自社品は、商用生産までにSVHCリスト化合物を使用しない製造プロセスを構築する		
	有害廃棄物排出量	2025年：5%削減 ^{*2}	2030年：10%削減 ^{*2}	

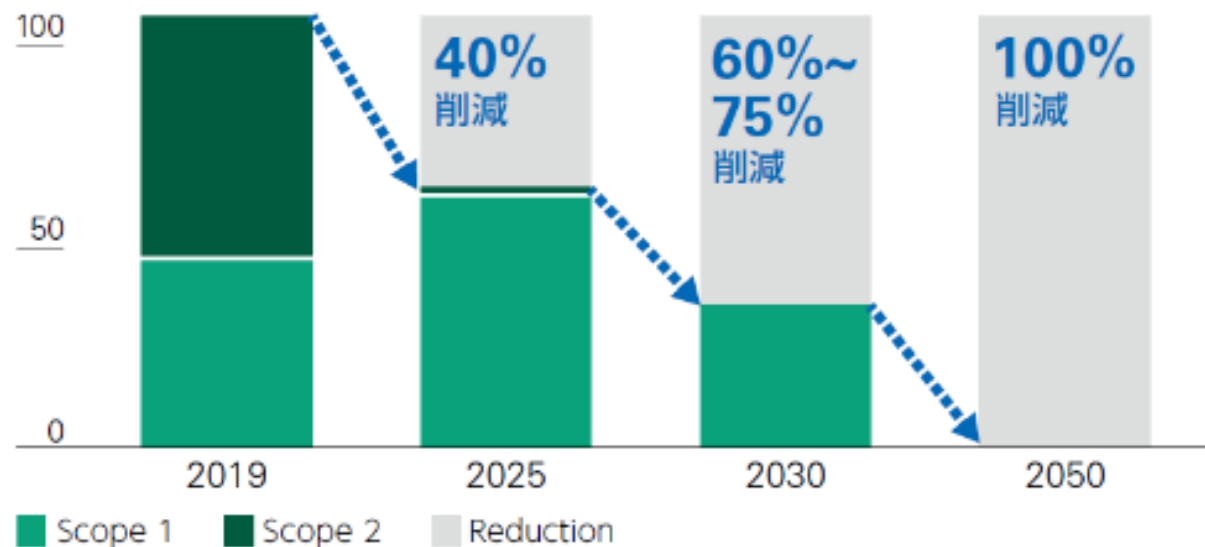
*1 Scope 1：直接排出量、Scope 2：エネルギー起源間接排出量

*2 延べ床面積当たり（賃貸物件を除く）

*3 高懸念物質（Substances of Very High Concern）

CO₂排出量削減目標

CO₂排出量削減イメージ
(1,000 t-CO₂)



2030年
60~75%以上削減*

- ・ 中外ライフサイエンスパーク横浜の新稼働・研究拠点整理、エネルギー削減・効率化と使用電力のサステナブル電力への変換を推進（現状のScope 2をほぼゼロに）
- ・ 一方、60~75%削減に向けては、電力以外のCO₂排出（Scope1）の削減が必要。既存設備の転換は供給能力や安定性で課題もあり、現時点から転換、設備統廃合や再設計を検討

2050年
100%削減*

- ・ 再生可能エネルギーの自社創製や産業構造変革の促進といった、現時点では困難度の高い視座も含め、これまでの延長線上にないイノベーションを起こすための努力を続ける
- ・ 一定の経営資源を投下し、新たな方策の探索に着手

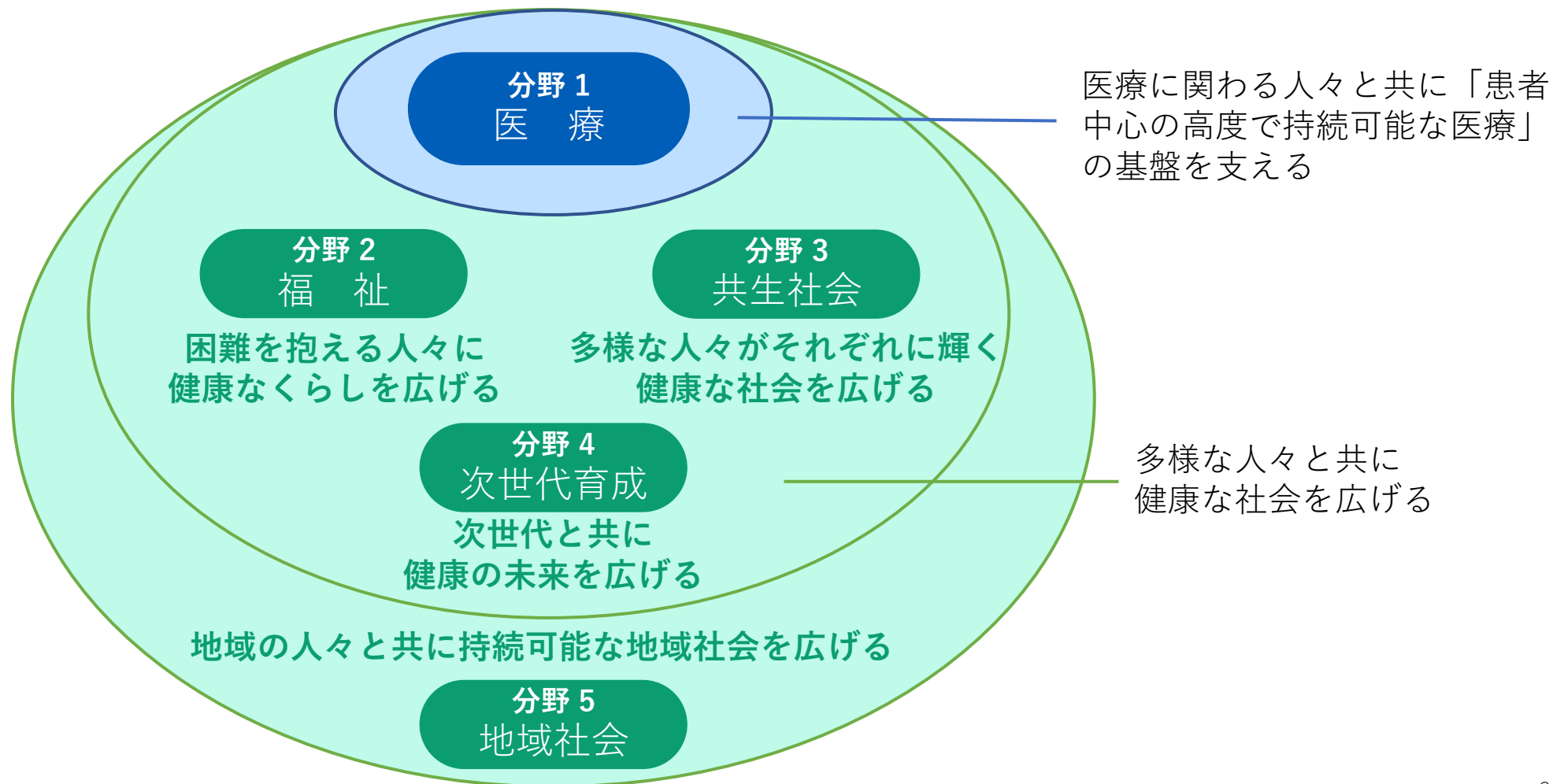
* 2019年対比の削減目標、但し新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえて基準年を最終決定

社会貢献活動*

*ミッション実現につながる社会課題の解決に貢献する活動を指し、財務的な利益と直接結びつく事業活動は含めない。



下記の5分野を優先的に取り組み、社会的ニーズに対応していきます。



社会貢献活動の事例

分野1 医療

「患者中心の高度で持続可能な医療」の基盤を支える

- ・ 医学・薬学領域の研究・教育の促進（東京生化学研究会の活動支援など）
- ・ 患者さんの治療やくらしのサポート（患者団体との協働、疾患啓発活動など）
- ・ 世界の人々の保健医療へのアクセスの改善（低中所得国向け非感染性疾患支援など）



小児がん医療支援活動（カンボジア）



非感染性疾患（NCDs）の診断および治療の支援（ミャンマー）

まとめ

中外製薬は

- ✓ 革新的な創薬技術を有する研究開発型の製薬企業で
- ✓ ロシュとのユニークなビジネスモデルによって
- ✓ 自社品の海外売上の増加による高い収益構造を有し
- ✓ ヘルスケア産業における世界のトップイノベーターを目指しています



国内
がん領域で
No.1*



国内
抗体医薬品市場で
No.1*



本日の内容

01

会社概要

02

ロシュとの戦略的アライアンス

03

中外独自の革新的な創薬力

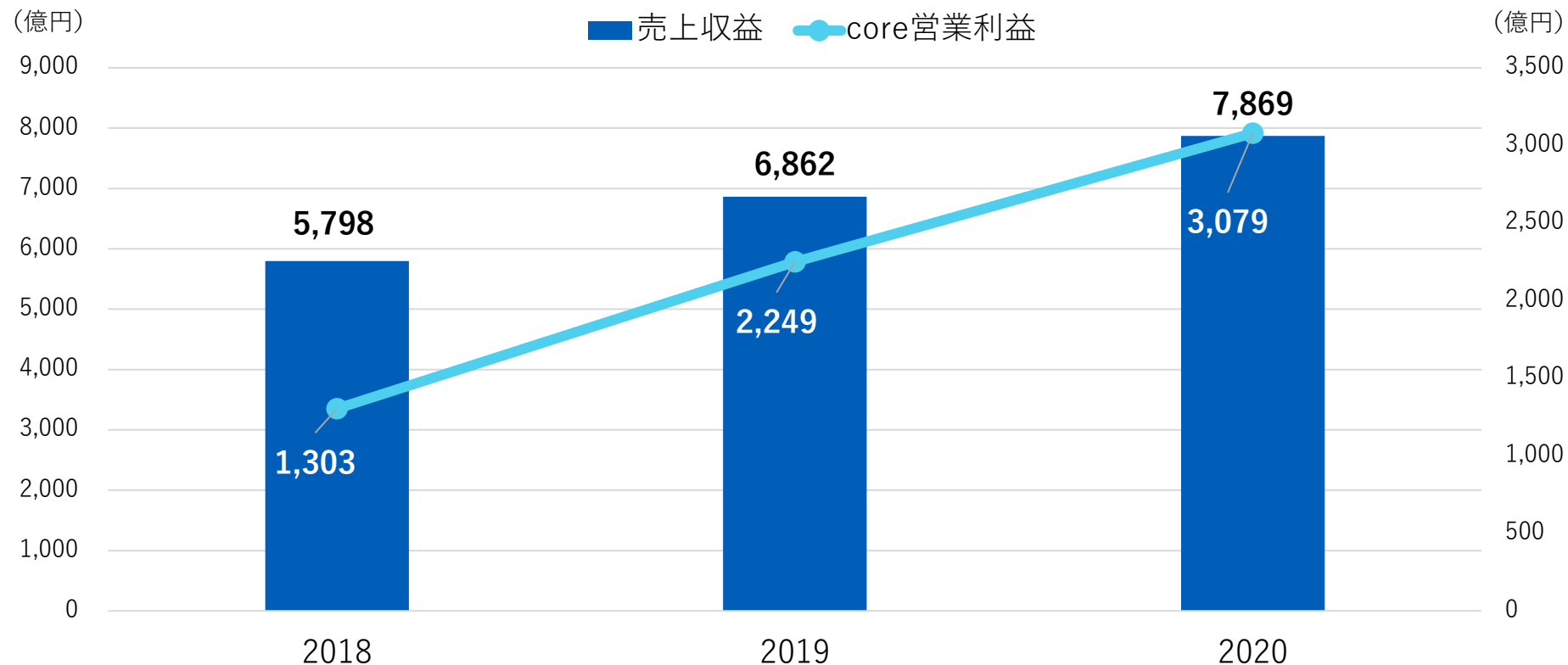
04

新成長戦略

05

業績と株式関連情報

2018～2020年の業績推移



Core EPS^{*1}

58.81円

101.93円

133.39円

IBI 21
定量目標

Core EPS CAGR (2018-2021)^{*2} 30%前後

(2018-2020)
49.5%

CAGR：年平均成長率（%）

*1 2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行った。2018年期首に株式分割が行われたと仮定して算定

*2 2018年平均為替レートでの一定ベース

2021年の業績予想

期中に予想を上方修正。大幅な増収増益で過去最高を5年連続で更新する予定

【億円】	2020年 実績	2021年 期初予想	2021年 修正予想	対前同	
売上収益	7,869	8,000	9,700	+1,831	+23.3%
製商品売上高	6,333	6,310	7,815	+1,482	+23.4%
国内	4,091	3,937	5,130	+1,039	+25.4%
海外	2,242	2,373	2,685	+443	+19.8%
ロイヤルティ等収入及び その他の営業収入 (ROOI)	1,536	1,690	1,885	+349	+22.7%
Core営業利益	3,079	3,200	4,000	+921	+29.9%
Core EPS (円)	133.39	141.00	178.00	+44.61	+33.4%

株式の基本情報

■ 単元株：100株 ■ 証券コード：4519（東証1部）

■ 株主優待：なし

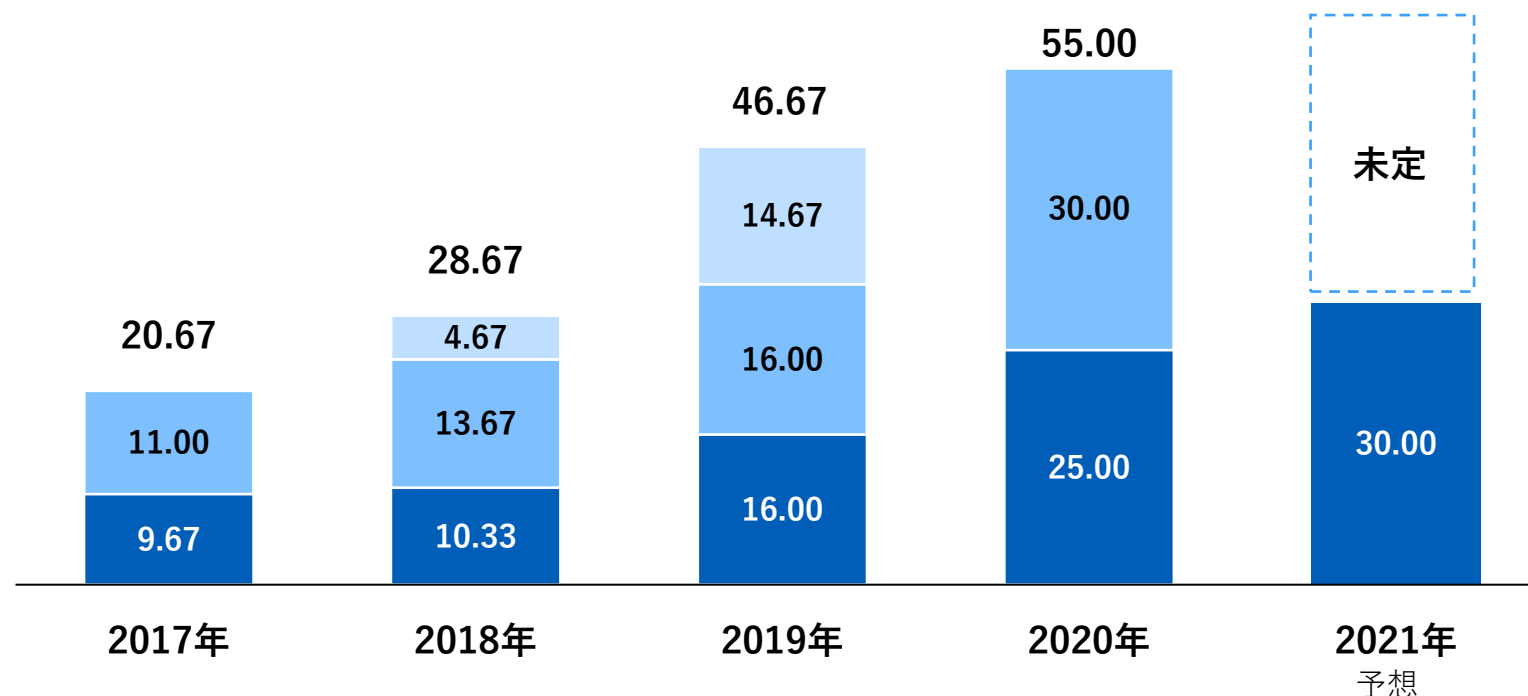
■ 利益配分に関する基本方針

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案した上で、Core EPS対比
平均45%の配当性向を目処に、安定的な配当を行うことを目標とします。

【円】

期末配当（特別）
期末配当（普通）
中間配当

2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行った。
2017年期首に株式分割が行われたと仮定して算出



配当性向	5年平均	48.4%	48.6%	47.4%	44.9%	—
	単年度	44.7%	48.7%	45.8%	41.2%	—

■ 新市場区分「プライム市場」の上場維持基準に適合

■ 一次判定結果

当社は、2021 年 7 月 9 日付けで東京証券取引所より新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、新市場区分において、「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認いたしました。

■ 今後の対応

この結果を受け、今後、当社取締役会における決議を経て、東京証券取引所が定めるスケジュールに基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めてまいります。

お問い合わせ先

広報IR部 インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554

E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp

担当 : 櫻井、佐藤、島村、吉村、山田